

委員会視察レポート

各委員会で先進事業を視察しました。 魅力ある刈谷市づくりに活かします。



病気とたたかう子どもたちを支援

滝川市では、任意団体である「そらぶちキッズキャンプを創る会」が中心になり、約20万人いるといわれている難病と闘う子どもたちのためにキャンプづくりを進めている。国内では、難病児を受け入れることのできる医療施設の整備は自然体験施設は初めてのことである。平成16年からスタートし、現在までにプレキャンプを延べ12回実施しており、施設完成後は1年に10回程度実施する予

定とのことだ。施設は事務棟及び医療棟が完成しており、平成23年度までに食堂、宿泊棟、浴場棟の建設を予定している。また、将来的にはキャンプ事業を社会福祉事業である大型児童館として運営することを目的とし社会福祉人としての法人取得を目指している。民間主導であることから補助制度はなく、資金はすべて寄附及び募金であることと、キャンプに参加する子どもたちの費用は無料というのが驚くべきものであるが、安定的な経営が不可欠なことから運営資金の確保は今後の重要な課題と思われる。それと同時に行政がどのような関わりをしていくべきか考えさせられるものであった。

そのほか、北海道恵庭市道央農業振興公社の農業振興への取り組みについて、江別市の農商工連携事業及び江別委の会について視察した。

そらぶちキッズキャンプについて(北海道滝川市)

福祉経済委員会 岡本博和 委員長

地域貢献ポイント制度について(埼玉県鶴ヶ島市)

企画総務委員会 鈴木絹男 委員長

鶴ヶ島市では、ボランティアで地域社会に貢献した市民にポイントを与え、地域貢献活動をさらに広げることを目的とする「寄附による地域協働活性化モデル事業」を実施している。この事業では、地域協働ポータルサイトを開設し、さまざまな市民活動交流や寄附支援などを行う中で、寄附をされた市民やさまざまなポイントに参加した人にポイントを利用し、獲得したポイントを公共施設利用料の割引や賛同企業・商店のサービス・クーポンとして利用できるようになっていく。獲得したポイントはサイト内の「マイページ」の中で確認することができ、参加やボランティアなどで得たものを、さらに地域への還元という循環サイクルができていく。



ボランティア活動で地域へ還元

今後はますます発展していくであろうと感じられた。パソコンの操作など高齢者にはいかに浸透させるかなど課題はあるものの、本市においても市民協働の流れを進める経過の中で、市民力と地域還元という面でも参考にできると思われる。そのほか、静岡県東部の地震防災センターについて、東京都大田区の税金の訪問催促進委託事業について視察した。

議会改革プランの推進について

(広島県三次市)

議会運営委員会 山田修司 委員長

面積約184平方メートル、人口約5万9千人の小規模な都市である三次市では、財政力指数0.38、経常収支比率94%と厳しい財政状態にある中、平成18年に「議会改革プラン」を策定し、平成18年と19年の2カ年を事業期間として改革を進めてきている。また、「議会改革特別委員会」を立ち上げ、情報公開や各審議会からの議員撤退(参画審議会43から24に縮小)などを行ってきたほか、活性化策の1つとして議案等への各議員の賛否状況の議会報への掲載も行われているようである。

今回の研修のメインテーマである「議会報告会」は、議会運営委員会の中から議員自ら提案したもので、議長を除く25名の議員が4班編成で19の実連合会単位に会場を設定し行われている。報告内容は現状の市の重要テーマを数項目絞り込んで行っているようであるが、それ以外の質問も数多く出て活発な様子である。成果としては、議員の資質の向上と市当局や議会の役割が市民によく理解されたことなどがあるようである。ただ、当初は珍しさもあり活性化しているかも知れないが、実連合会のみでの設定では顔ぶれも変わらず将来マンネリ化の懸念も考えられる。また、限られた意見の場になっても問題で、更なる工夫が求められる感がある。しかしながら「議会報告会」は段階取りから全て議員が行っていることから、議員にとって相当なパワーを要するもので、前向きな議員の姿勢は大いに評価できる。現在の三次市の議会の仕組みで少々気にかかるのは、

一般質問が1人当たり30分で、1人年間2回までと制限されている点である。やはり、議員本来の役割である発言の機会を制限することなくもっと自由度を上げるべきであると感じた。

そのほか、山口県山口市及び兵庫県明石市の議会活性化の取り組みについて、視察した。



開かれた議会へ、改革を推進

住宅市街地総合整備事業による新栄町の整備について (福岡県大牟田市)

建設水道委員会 犬飼博樹 委員長

大牟田市の再開発は中心市街地活性化計画に沿ったもので、今回はその一部の西鉄新栄町駅周辺について、研修及び現地視察を行った。大牟田市は一見すると再開発の必要がなさそうなお店も、商店も多く、町並みも道路もすっかりしていた。当市曰く、住宅(マンション)を供給して中心街に人をUターンさせ、高齢化率29.4%の高齢化社会に対応できるコンパクトシティを目指すために商店・病院などを集約させる再開発とのことであった。

久留米、熊本に30分で行ける立地から、買い物地域で済ますことも難しい現状があるとのこと、名古屋まで20分で行ける本市とも通じる悩みを持っていた。刈谷駅南口の再開発においてもマンションを建てたことはよい事だと思われるが、北口においても住宅と商店が一体となった再開発が望まれる。それは人が住まなくては商店街は成り立たないからである。大牟田市の再開発事業の中で特



ソフト事業を充実して、再開発

筆するのはハードだけでなく、イベントや一店逸品運動、空き店舗活用などソフト事業が20件もあることだ。再開発の前に人に楽しんでもらう事業も必要であると痛感した。

そのほか、熊本県熊本市の指定管理者による市営住宅の管理運営について、鹿児島県鹿児島市の電線類地中化事業及び市営住宅に関する業務委託について視察した。



英語を通じて、コミュニケーション力を向上

寝屋川市は平成17年度に内閣府「寝屋川市小中学校英語教育特区」の認可を受け、「国際コミュニケーション科」を開設している。今回は英語教育推進5年目を迎える中、取り組みの経緯と目的の達成度について研修をしてきた。

て(言葉が通じなくてもコミュニケーションをとらなくてはいけない状況を意図的に作って)伝えようとする努力と受け止める努力の双方を体得させている点である。また、校長や教頭も参加しての意識者、小中英語担当員などによる小中英語教育推進委員会を設置したこと、取り組みの成果と児童生徒の姿を発表する研究発表会の開催なども挙げられる。

各市で話のあつた小中一貫教育について、本市ですぐに導入できるとは思わないが、未来を託す子どもたちにとって有効な手段の一つであると思われる。刈谷市の教育レベルは大変良いと言われているが、良ければ良いの理由が必ずあると思われるため、再現性を持たず意味でも、今の段階での冷静な分析をしておく必要を強く感じた。

英語教育特区について(大阪府寝屋川市)

文教委員会 安部周一 委員長

そのほか、兵庫県尼崎市の学校エコ改修と環境教育について、大阪府堺市の確かな学力の育成について、視察した。

委員会の動き

各委員会では議案や請願の審査のほか、次のことが話し合われました。

企画総務委員会

◆所管事務調査

「市制60周年記念事業について」

平成22年の市制60周年にあたり行われる記念事業やキャッチフレーズについて説明がありました。

キャッチフレーズ

「Next Stage いいまち刈谷」新たな始まり」

主な記念事業

・市民公募事業補助事業
公募による市民が参加できる事業に対し、補助をします。

◆刈谷検定開催事業

検定を通じ刈谷市の魅力を認識してもらおうとにも郷土に対する愛着を高めます。

◆防災テーママーク大会開催事業

楽しみながら防災に関する知識を高めます。

◆「定住自立圏構想の概要について」

新しい広域連携の形である定住自立圏構想について、説明がありました。

◆定住自立圏構想とは

地方において中心となる都市、「中心市」と周辺市町村が協定を結ぶことにより、中心市の総合病院が周辺市町村に医師の派遣を行ったり、中心市の大型ショッピングセンターと周辺市町村の商店や農家との間で流通の連携などをするものです。

◆中心市の要件(要宣言)

・人口5万人程度以上で、昼夜間人口比率が1以上。

中心市の要件を満たす市
刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、田原市

◆所管事務調査

「中心市と協定を締結する市町村」

中心市への通勤通学割合が10%を超えているなどの要素を持つ市が該当します。

刈谷市の場合、知立市、高浜市、東浦町が該当しますが、いずれか1自治体でも連携を希望されることが確実になった場合、中心市宣言を行いたいと検討しています。

◆福祉経済委員会

◆所管事務調査

「高齢者単身世帯等のごみ等個別収集について」

家庭ごみなどを収集場所まで運ぶことが困難な高齢者や障害者の方の玄関先まで収集に伺い、ごみ等の排出を支援します。

◆対象世帯

次のいずれかに該当し、かつ親族や近隣在住者等の協力を得ることが困難であり、自力で排出することが困難な世帯が対象となります。

- (1) 要介護の認定を受けている者で一人暮らしの世帯
- (2) 身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳または療育手帳の交付を受けている一人暮らしの世帯
- (3) 市長が特に必要と認める世帯(右記高齢者等及び障害者のみで構成される世帯、病气、ケガ、妊産婦等一時的に収集が必要な単身世帯等)

◆実施内容

・燃やせるごみは週1回、その他のごみ等は月2回収集します。

・収集品目は、市で通常収集している12品目です。
・ごみの排出が無い場合には、呼び鈴・声掛けをして安否確認をします。

◆今後の予定

21年12月下旬に対象者へ個別通知し、22年1月から申請受付を開始その後3月から収集開始を予定しています。

◆建設水道委員会

◆所管事務調査

「下水道工事等の舗装復旧について」「岩ヶ池公園の駐車場整備計画について」などが話し合われました。

◆文教委員会

◆所管事務調査

「刈谷市総合文化センター開館記念式典及び開館記念事業について」

平成22年4月3日・4日に実施される記念式典について説明がありました。その後1年を通して様々な記念事業を行います。

◆主なイベント

- 平成22年4月3日(土) テープカット及び開館記念式典
- 能楽囃子大倉流太鼓大倉正之助と書道家武田双雲による揮毫パフォーマンス
- 平成22年4月6日(火) 平原綾香コンサート
- 平成22年5月15日(土) HOME MADE 家族コンサート
- 平成22年6月12日(土) フォーク大集合(海援隊とごみみずのジョイントコンサート)

